

別記

審議概要

1 公開案件の審議

(1) 議案第1号 北海道立高等学校教育課程編成基準の一部改正について

ア 説明員 堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長

イ 結論 原案どおり決定

ウ 審議内容

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

高校の教育課程につきましては、学校長が、教育基本法ですとか、あるいは、学習指導要領に基づいて編成・実施することとされていますが、学習指導要領に定められた事項を円滑に実施するための基本的な事項について、教育委員会決定として「北海道立高等学校教育課程編成基準」を規定しています。

この基準では、専門学科の目標ですとか、教科・科目の標準単位数など、高等学校が教育課程を編成する上で必要な事項を定めています。

改正内容については、「概要」を御覧いただければと思います。今回の改正は、2点ありまして、1点目は、令和5年度（2023年度）から、美幌高校に設置することが決定しています農業に関する学科の「未来農業科」の学科の目標を定めるものです。

この学科の学習内容については、下の枠内にも記載していますが、自然環境に配慮した農業技術の習得ですとか、農業機械の自動操舵やドローンなどスマート農業に関する学習、6次産業化、起業に関する学習など未来を見据えた農業について学習する予定としています。

また、改正の2点目としては、令和3年度（2021年度）まで、名寄産業高校に設置されていた工業に関する学科の「建築システム科」の学科の目標を削除するというものです。

資料2ページ目の「別記」であります。こちらは教育委員会決定の改正内容になりますが、「編成基準」の別記1の1に、新たに設置する「未来農業科」の学科の目標を追加いたします。また、別記1の2にあります「建築システム科」の目標を削除するものです。

なお、参考として新旧対照表を添付しています。

施行期日については、令和5年（2023年）4月1日からとしています。

説明は以上です。

【倉本教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【青山委員】

資料で「未来農業科の学習内容について」と書いてあるところについてですが、農業機械の自動操舵やドローンなどの専門的な授業があるというのが特徴なのかと思っていますが、専門の先生はもう選定されていらっしゃるのですか。どのような先生が教えてくださるのかなというところに興味があります。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

専門の授業を進める上で、地域の方々と連携した取組を進めるということで、例えば企業の専門家ですとか、そういった方にもお手伝いをいただき、こういったスマート農業の取組を進めることを考えています。

【青山委員】

結構協力体制が整っていらっしゃるのですか。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

はい。

【青山委員】

分かりました。ドローンのことについてや6次産業化、起業に関する学習ですとか興味がある生徒たちは多いと思うので、残るようなものがあったら情報提供してもらいたいと思います。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

未来農業科については、1年生は基本的な勉強をしまして、2年目からコース制を設けまして、生産コースという取組と食品コースという取組がありまして、生産コースについては、従来からの牛ですとか、そういった家畜を飼ったり、あるいは畑作物を作ったり、そうした中で、先程の機械の操舵ですとか、そういったものを活用していきます。

食品コースにつきましては、加工品のベーコンですとか、あるいは乳製品、農産物を使ったジュースづくりですとか、そういったものを作って商品化していく中で、起業に関する学習に取り組むことになるかと思えます。

具体的な教育課程の編成に当たっては、様々な関係機関と連携を取りながら、学習を進めたいと学校からは聞いています。

【青山委員】

新聞の記事でも拝見したのですが、高校生が作ったパッケージですとか、商品ですとかがふるさと納税の返礼品で出てますよね。そういったことも考えられそうですよね。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

そうですね。返礼品にするにはある程度継続性が必要だと思いますので、なかなか難しい部分もあるのかと思いますが、実際にふるさと納税で活用されている学校もありますので、そういった先進事例も見ながら考えていきたいと思えます。

【青山委員】

是非この起業に関する学習というのが、実社会とつながるように商品開発をして、ふるさと納税などで返礼品となるような展開になるまでサポートしていただきたいと思えます。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

食品コースを選んだ生徒は1生徒1商品化で取組を進めていくつもりみたいですので、そういった中で、生徒のアイデアがいろいろな形で生まれてくるのかと思っています。

【大鐘委員】

美幌高校は農業に関する学科が二つあったかと思いますが、今回それが間口減をきっかけとして、新しい学科に統合するということですが、これまでの学科の内容が、先程のお話ですとか、ある程度成果として、引き継がれる部分もあるのかなと感じたのですけれど、そういう理解でよろしいですか。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

今現在、生産環境科学科と地域資源応用科で行っている取組を未来農業科に引き継いで、更に発展させるということを考えています。

【川端委員】

道立高校として初めて未来農業科という学科を設置するというのですが、農業科を持っている学校が道内各地にありますので、その辺りとの違いは、ドローンやスマート農業になるのでしょうか。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

未来を見据えたということで、ドローンやスマート農業に力を入れたいと思っています。他の学校でもスマート農業に向けた研究というのは進められていますが、特に美幌高校としてはこのような取組を中心に据えて進めたいという思いから、こういう学科を設置することとなりました。

【川端委員】

来年度設置ということで、数年かけて成果を出していけば、やはりこういう取組が必要ということで他の農業高校の方にもどんどん波及していくようなことになるかと思っておりますので、非常に楽しみにしています。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

こうした取組について、積極的な発信も促していきたいと思っております。

【倉本教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

【倉本教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、原案どおり決定したいと思います。よろしいですか。

《委員了承》

【倉本教育長】

それでは、この件は決定します。

(2) 報告1 「2023 H o k k a i d o I n t e r h i g h W i n t e r
F e s t i v a l (冬フェス)」の実施等について

ア 説明員 堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長

イ 結論 報告を了承

ウ 審議内容

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

北海道実行委員会では、北海道高校生活動推進委員会が中心となり、様々なイベントを通じて、インターハイの機運醸成を図るための広報活動を積極的に推進しているところです。今後の活動も含めて、まず、資料の上半分にあります自主事業、今回は「冬フェス」と称しまして、今月下旬から学校の冬休みが始まりますので、その冬休み期間中に、「冬の北海道からのメッセージ」をテーマに「冬の北海道の魅力」の発信ですとか、「インターハイの応援メッセージ」を内容とする動画を応募のある高校に作っていただき、募集した動画をオリジナルのY o u T u b e 番組で広報するという取組を進めることとしています。

「冬フェス」の右横の「春フェス」につきましては、今後検討することとしておりまして、内容が決まりましたら、また、御報告申し上げたいと思っています。

資料の右にあります庁内連携事業としては、「する・みる・ささえる」メッセージリレーとありますが、今年7月に道に設置されました官民連携組織の「北海道スポーツみらい会議」による取組の一環として、今月の15日からスポーツを「する」人、「みる」人、「ささえる」人、それぞれの立場からスポーツで北海道を元気にするメッセージリレーの取組が進められていますが、この取組の一環として、インターハイに関しても、今後部活動や高校生活動推進委員会に取り組む高校生たちからの応援メッセージの動画を配信していきたいと考えています。

続きまして、資料下段にあります連携事業ですが、まず一番左の、今月3日、4日に実施されましたレバンガ北海道のホームゲーム会場、北海きたえーるにおいて、高校生による来場者向けのPR活動を実施しています。また、その右に記載がありますが、今月10日から16日ま

での間、道の包括連携事業として、札幌市内6か所の街頭の大型ビジョンで、インターハイに係るPR広告を放映したところです。

また、今後の取組として、メディアとの連携として、北海道新聞社の御協力の下で、2月4日から開催される「さっぽろ雪まつり」において、高校生によるステージ特設ブースでのPR活動のほかに、雪像づくり、あるいは、大型ビジョンを活用した広報活動に取り組むこととしています。

このほか、資料右側に、YouTube企画の更新などの企画を記載していますが、11月6日に実施しました「秋フェス」でのYouTubeによる配信企画を継続的に実施することとしまして、北海道の魅力や、道や市町での取組、運動部活動や高校生活動の取組の様子を発信するとともに、SNSを積極的に活用し、多くの方々に大会の開催に向けた情報が届きますよう広報活動を進めていきたいと考えています。

道の実行委員会としましては、インターハイ開催の機運が広く道民の皆様に醸成されますよう、高校生のもっと活動したい、関わりたいという意欲を大切にしながら豊かな感性や創造性を取り入れ、高校はもとより会場市町の実行委員会・関係団体と様々な方々との連携・協力の下で、効果的かつ時機を見たPR活動を積極的に進めてまいりたいと考えています。

説明は以上です。

【倉本教育長】

御質問や御意見はありませんか。

【川端委員】

「秋フェス」もすごいと思ったのですが、冬フェスに関しては、YouTubeでの動画配信など私たちでは時間が掛かりそうなものをしっかりと企画しているのが素晴らしいなと思っています。そして道内全域の高校の中からこういう募集をするということで、インターハイだけではなく、自分の地域の「色」の発信も含まれると思いますので、配信先としてもっといろんな方々に是非売り込んでいただいて、北

海道の魅力発信、観光につなげていただくようなものになってくれたら、素晴らしいなと思います。

インターハイが終わっても、このような自分たちの地域での学びを道教委でも考えていると思いますので、継続的に配信できていくような、先輩から後輩へ引き継いでいけるようなことができれば素晴らしいなと思いますし、是非この配信を見たいなと思っています。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

開催前につきましても、開催が終わった後につきましても、今回のインターハイでの取組を本道の今後のスポーツ振興や高校生による活動にいかにつなげていくかというところも課題の一つと考えていますので、高校生をいろいろと巻き込みながら、取組を進めていきたいと思っています。

Y o u T u b e 番組も作るだけではなく、見てもらわなければ、どうしようもありませんので、いかにして見てもらうかといったところもどのように進めていくかいろいろと考えていきたいと思っています。

【青山委員】

Y o u T u b e については見てもらわないことには、と思っていますので、例えば道立高校で道徳や体育の時間を使って、道内の高校生がこのような活動をしているということでY o u T u b e を見る時間を設けていただきたいなと思います。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

広く高校にも呼び掛けながら、是非そういった時間を作ってもらえるように、特に大会が近づいてきたら、そのような時間を設けてもらいたいなと思っています。

【青山委員】

選手のモチベーションにもなるのではないかと思いますし、それを目標に頑張るぞという子供たちも増えてくると思いますので、授業の一環、朝礼や終礼でもいいと思いますけれど、見ていただく機会を学校でも作ってほしいなと思いますので、積極的な呼び掛けをしてほしいと思います。

【堀本学校教育局長兼ICT教育推進局長】

部活に取り組む生徒はもちろんですが、他の生徒の意欲の向上にもつながると思いますので、是非そういった場面を持ってもらいたいと思っています。

【倉本教育長】

ほかに御質問や御意見はありませんか。

《委員から質問・意見なし》

【倉本教育長】

それでは、以上で本件の審議を終わり、報告を了承します。